

井上寛子 97歳 誕生日の一日

—2014年12月3日（娘の静子による観察日記）—

6時 目覚める。

6時30分 起床。

7時 NHK テレビのニュースを見る。

7時30分 朝食のパンがないことに気が付いて、スコーンを電子レンジで焼くことにする。冷蔵庫に卵が一つあつたので、泡だて器で泡立て、砂糖、缶に残っていた薄力粉を混ぜる。曠太郎と静子（娘夫婦）の分も作る。サラダを作る。ブロッコリーをゆで、トマトの皮をむき、エノキを熱湯でゆでる。柿をむく。

8時を過ぎても、静子が起きてこないで、待ちきれず、先に朝食を始める。曠太郎と静子が食堂にきたので、朝食を食べながら、みんなで、朝のディスカッションをする。

9時 昨夜、洗濯物を取り入れるのを忘れていたので、庭の物干し場にとりに行く。ロンドンの Simon De Pury から展覧会の案内が曠太郎のパソコンに送信されていると静子が言うので、曠太郎の部屋で展覧会の絵をみんなで見ると見る。

9時30分 台所で朝食の食器を洗い終え、二階の自分のアトリエに行く。いつものように、少し絵を描く。第9回 横浜山手芸術祭参加作品を点検し、下準備を開

始する。

12時 テレビのニュースを見る。静子が長崎チャンポンを作ったので、昼食のため台所に下りていく。

13時 昔、お世話になった人を思い出して、手紙を書き、今まで大切にしていた重い「木の化石」を、小包に梱包し、プレゼントにする。

14時 重い「木の化石」を持って、坂の下の松本郵便局へ向かう。郵便局についたら、財布を忘れたことに気づいて、郵便局員に、財布を自宅に取りに行く間、「木の化石」の包みを郵便局に置いておいて欲しいと言ったら、管理上責任が持てないと言われて、また、重い「木の化石」を抱いて、中丸の家までの急坂を登った。財布を探して、また、急な坂を下り松本郵便局に行き、小包を郵送した。帰りは、少し疲れたので、郵便局のそばから、市営バスに乗り、県営住宅前で降りて、「クリエイト」で、温かい靴下を購入した。ビオフェルミンも買う。

15時 アトリエのベッドで横になり、すこし休憩する。

16時 いつも朝に読む祈祷書（戦後、山手の聖公会の牧師岩井先生からいただいた）を読み忘れたので、大切な祈祷書を読む。字が小さいので、最近では、虫眼鏡を使用している。終戦直後から、闘病生活中も、そして今も、この祈祷書を読まない日はない。

17時30分 誕生日のために、曠太郎がウナギを横浜駅のデパートで買ってきて、ご飯を炊き、うな丼を作る。

すると、「本当はビフテキが食べたかった」といった。そこで、曠太郎が肉じゃがを料理した。ジンライムで乾杯。「アルコールがこんなにおいしいのなら、毎食、飲みたいわ!」と言った。井上家はキリスト教のピューリタンの影響で、基本的には「禁酒」なのだが。デザートは、豆寒天のみつまめで、再度誕生日を祝う。夕食の食器の洗い物を静子がやり残したので、また、洗って、きちんと台所全体のあとかたづけと床の掃除をする。

19時 ニュースを見て、そのあともテレビを見る。

20時 入浴。

22時 就寝。

